

# Harmonica Concert

**78**回

**定期演奏会**

明治大学ハーモニカ・ソサエティー  
1969年 11月14日(金) P.M6:00  
神田共立講堂



部 長  
北 島 忠 男

創立50周年を記念した春の定期演奏会が終って間もなく、明治大学では学生の手による全学封鎖が行なわれました。秋の定期演奏会を迎えたい、大学の手による全学ロックアウトが続けられています。この間に、大学立法反対、クラス討論、学生大会、全共闘などの言葉が立看板に、さらに、大学砦攻防戦、火炎びん、拠点大学機動隊導入などの言葉が新聞に現われました。

こうした事態のなかで、学生運動や大学改革の問題が真剣に論議されていますが、そのなかでも、大学の自治、とくに学生の自治のあり方も、一つの大きな問題としてクローズアップされています。ハーモニカ・ソサエティの活動も、大学における学生の自治活動の一環として行なわれております。そうした意味では、ハーモニカ・ソサエティといえども、大学封鎖やロックアウトのもった意義を十分に考えねばなりません。

こうした異常な状態のもとで、ハーモニカ・ソサエティは第78回目の定期演奏会を開催するはこびとなりました。大学がロックアウト中のため、大学の施設が使えず、練習には大変苦労したようです。大学のクラブ活動のあり方を考えながら、これからも、ハーモニカ・ソサエティの発展に努力して行きたいと思えます。ご来場の皆様の暖かいご鞭撻を心からお願い申し上げます。

## Message

日ごとに秋の深まりゆく今宵、ここ神田共立講堂におきまして第78回定期演奏会を迎えますことは私共部員一同大きな喜びとするところであります。わが明治大学ハーモニカ・ソサエティは大正8年に創立され翌年10月28日に神田YMC Aホールにおいて第1回発表会を催し以来、半世紀におよぶ伝統と、この小さな楽器ハーモニカを絆として力強い団結のもとに今日まで受け継いでまいりました。去る6月には創立50周年の演奏会を開き部員一同益々の発展に意欲を燃やし連日練習に励んできたしだいでありませう。なお今回の演奏会は第2部にドラムセット・エレキベースを新たに加えた演奏で「思い出のポピュラーソング」を特集し、3部の「ラテン・軽音楽」とともに皆様方と楽しいひとときを過ごしたいと思えます。未熟ではございますが、私共の演奏する音楽が皆様の心にとどまることができれば幸いと思えます。最後にこの演奏会のために賛助出演して下さいました新谷のり子さん、ならびに会場整理に当たって下さいました実務珠算部の方々、そしてご多忙にも拘らずご来場下さいました皆様方に心からお礼申し上げます。

### 明治大学ハーモニカ・ソサエティ部員一同

秋深き今宵、貴明治大学ハーモニカ・ソサエティがここ神田共立講堂において第78回定期演奏会を開催されますことをわれわれ明治大学マンドリン倶楽部一同心よりお喜び申し上げます。常に若々しい情熱をもち音楽の限りない追求と学生らしさと失なわない演奏に必ずや聴く人の共感を呼ぶものと確信しております。最後に、今宵の演奏会を成功裡に終え貴クラブのなご一層のご発展をお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

### 明治大学マンドリン倶楽部一同

## 明治大学ハーモニカ・ソサエティの歴史

わが明治大学ハーモニカ・ソサエティは大正7年に故佐藤時太郎氏を中心に結成され、翌8年春、小石川植物園においてわが国で最初の合奏が、同氏の指揮の下に演奏されました。そしてわが国ハーモニカ界の元老川口章吾先生（現在当ソサエティ顧問）を迎えて指揮育成を受け、1年余の準備と練習を積み第1回発表演奏会が大正9年10月28日、神田YMC Aホールにて開催されました演奏会は絶讃を博して大成功のうちに無事終了し、ここに当ソサエティは世の中に第1歩を踏み出したのです。当時は国産ハーモニカの種類も少なく、メロディーハーモニカ、バリトン、バス、コントラバス、オクターブの5種類に過ぎず、合奏といっても5部合奏程度でわが国ハーモニカ合奏の黎明期においては止むを得ないことでした。またこの頃明大には校歌がなかったのですが、当ソサエティの幹部鈴木重吉氏らの尽力により、山田耕筰作曲による現在の明治大学校歌が生まれたのです。大正12年の関東大震災をへて大正13年頃より、今までの曲に飽き足らず、次第に高踏的なものを演奏すべく半音ハーモニカを併用し、序曲、歌劇などに手を染め初めたのです。そして部員一同監督指揮者の命を良く守り、規律を重んじ、一条乱れぬ団結の結果、ハーモニカ界において第一人者としての不動の地位を築き上げたのです。その後数度の戦争に際し、危機に直面することもありましたが、音楽に対する情熱とソサエティに対する愛情とにより、ますます発展の一途をたどってまいりました。ハーモニカの種類もいろいろ変り、昭和39年には従来の複音ハーモニカを全廃し、シングル・ハーモニカに変えました。年々、ソサエティの気風も変遷していますが、長い伝統の重みもあるところへ、いわゆる終戦っ子、現代っ子も入部し、新旧の気質が入り混り、そこに現在の輝かしい伝統が形成されつつあります。今春、6月創立50周年の記念演奏会も無事終了し、またここに新しい出発を期したいと思えます。



顧問  
林久吉

明治大学ハーモニカ・ソサエティーは、大正7年呱呱の声をあげた楽団でありまして、おそらく、学生楽団として結成された最も古い歴史をもつものの一つではないかと思われる次第であります。私は明治大学ハーモニカソサエティーがさきに、楽団結成50年の歴史を記念するため、記念大演奏会を当館において開催し、多数の方々のご来場をかたじけなくしたことは、半世紀の歴史を聞いたわがハーモニカ・ソサエティーが、次の半世紀の勇躍、大発展を期待する決意を表明した演奏会であったことと確信するものであります。

本日の演奏会は、この意味で、次の半世紀の先頭を飾る極めて重要な演奏会であることにご留意の上ご鑑賞下さいますようお願い申し上げます。

ご来場の皆様、今後も従来のごとくハーモニカ・ソサエティーにご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。(前部長)

## Message

今日、明治大学ハーモニカ・ソサエティーがここ共立講堂において第78回定期演奏会を開催されますことをわれわれ立教大学ハーモニカ・ソサエティー部員一同心よりお慶び申し上げます。来年の70年安保をひかえ、お茶の水の学生街の一角として明治大学も、そして貴下のクラブにおいてもバリケート封鎖に機動隊導入などでいろいろと苦勞の多いことと思いますが、このような状況にも負けないで共に“ハーモニカ音楽”の追求のために励んでいこうではありませんか。最後に今宵の演奏会が成功裡に終わられんことを心からお祈りしてお祝いの言葉とさせていただきます。

### 立教大学ハーモニカ・ソサエティー

おめでとう、第78回定期演奏会!! 私たちと同様、リード音楽と取り組む学生バンドの最古参と目される明治大学ハーモニカ・ソサエティーが今日78回目の定期演奏会を迎えられたことを本当に素晴らしいことと思います。最もポピュラーなハーモニカという楽器を中心に用いながらちょっと忘れられた感さもあるハーモニカ音楽・リード音楽を“時”とマッチしたものにして演奏し研究されているところに明大ハモ・ソサの大きな意義があるように思います。今後の明大ハモ・ソサの飛躍的發展を期待すると共にライバル意識に燃えるものです。今宵の成功を祈ります。

### 早稲田大学ハーモニカ・ソサエティー

第78回の定期演奏会を開催するにあたり、明治大学ハーモニカ・ソサエティーの日頃の研究心に富んだ練習と努力の成果をわれわれハーモニカ音楽を愛する仲間として一緒に楽しみたいと思います。年々厳しさを加える学生運動のために練習も自由にできないことは明治大学も例外ではなく今日の演奏会にも大きく影響していることと考えます。この揺れ動く学生運動の中心において、明大ハーモニカ・ソサエティーは今何をするのが最上の生き方であるかを理解し、毎日の練習を推し進めていったことに対しわれわれは深い尊敬の念を起こすものであります。これからも全日本学生ハーモニカ連盟の一員として大きく成長してゆかれることを願ってやみません。今回の定期演奏会の成功を確信しております。

### 中央大学リード・オーケストラ

明治大学ハーモニカ・ソサエティーの第78回定期演奏会の開催を心からお慶び申し上げます。大学紛争の煽を受けてか、大学教育において人間的な結びつきが、段々失なわれていく傾向にあります。まさに“戦国の世”という名にふさわしい今日この頃ではありますが、こういった傾向を根本的に克服するためには一つの方法が考えられます。音楽を通して部員相互の融和から生まれる心のハーモニー、個人個人の協調精神を平素の練習で身につけ音楽の真の楽しさを味わおうという中から生まれる人間的な結びつき——現在失なわれつつあるといわれるが——その人間的な結びつきを持つように努力することです。チーム・ワークのとれた明大ハーモニカ・ソサエティーのゲバ棒を持って闘うより、穏やかでどっしりとした姿勢で若い力を演奏にぶっつけていこうとする本日の演奏会が盛大でありかつ成功することをお祈りし、ますますのご発展をお祝いしてご挨拶と致します。

### 国学院大学リード・オルケスタ

